

■前田蓮山 政治記者，評論家。明治・大正・昭和にわたる実体験から，政治の盛衰を政党政治史・人物評伝に。

まえだれんざん

佐賀の乱・・・1874＝ 長崎県諫早市森山村で，村役前田又次郎，イヨの二男に生まれる。本名又吉。

小学校時代には神童呼ばれ，一度おそわったことは，決して忘れず，郡長や県令から賞与をもらったこともあった。曾祖父が買ってくれた漢字の字引で，十八史略，日本外史，国史略，論語などの漢籍及び徒然草とか竹取物語などの国文は独学で読み取れるようになる。

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ 9歳：先生から新聞借りて読み，「自由教育か国家教育か」と題ずる論文を書いて，先生に見てもらったりする。

国民之友始・1887＝13歳：この頃には，唐詩選も読み漢詩の作り方も覚え，一家の近くの山にちなんで“蓮山”号を使い始める。
初の対等条約1888＝14歳：この頃には，先生たちが集まって演説の練習をする会に出席し，大人に混じって自由民権論を弁じる。
帝国憲法発布1889＝15歳：この頃には，馬琴の小説はほとんど読み尽くし，その他，多くの軍談本に読みふける。
帝国議会始・1890＝16歳：制度変更で士官学校に入学できず，長崎の柴田英語学舎学校で学ぶなどして，準教員免許状を取り，

大本教・・・1892＝18歳：
郡司千島探検1893＝19歳：長崎県尋常師範学校に合格。英語の勉強を続け，
日清戦争始・1894＝20歳：

八幡製鉄始・1897＝23歳：卒業。東京高師へ進むが，盲腸炎で生死をさまようよう事態となり，体力気力も失せて，帰郷。
Bushidou・・・1899＝25歳：再び上京し，東京専門学校(早稲田)の哲学科に入り，外交官になろうと思って，英語政治科に移るが授業が面白くなく，ブラブラしているうちに

田中正造直訴1901＝27歳：郷里の隣町出身の第一銀行重役の世話で，元文部次官辻新次の書生となり，その援助で，英・漢夜学塾を設ける一方，出版社の原稿など書いて，独立生活ができるようになる。

教科書疑獄・1902＝28歳：諫早出身の漢詩人野口寧済の世話で，「{横浜新報}に入社し，新聞記者の第一歩となる。
日比谷公園・1903＝29歳：政友会代議士日向輝武と出会い，その勧めで，群馬県の有力者の娘新井イチと結婚。日向が会長つとめる「{電報通信社(電通の前身)}」に鞍替えるが，

日露戦争終・1905＝31歳：通信社に仕事に飽き足らず，出版事業に取り組むも，悪戦苦闘の末倒産，莫大な借財を負い，
満鉄発足・・・1906＝32歳：長女が誕生。
アヲキヲ創刊・1908＝34歳：長男が誕生，「路頭に迷う人生最大の危機を，日向の援助でなんとか切り抜け，学生時代に小説の手ほどき

伊藤博文暗殺1909＝35歳：二女が誕生。「{毎日新聞}が{報知新聞}に身売りした際に，再び新聞社に入った直後，妻が急逝。
韓国併合・・・1910＝36歳：「再婚でき仕事に専念，得意の人物批評の取材で多数の政界人と面識を持ち，その信頼も得て行く。

明治天皇没・1912＝38歳：
第一次大戦始1914＝40歳：*{毎日新聞}での原敬の評論「議会の閣将」が評判となるが，経営が山本実彦に移るのを期に退社，フリージャーナリストとして，雑誌{太陽}に書いた「今日主義の原敬」が評判となり，{時事新報}からの招聘に{太陽}執筆続ける条件で受諾。原敬を初めて訪問して信頼を得，以後，原敬名で発表する文章を全て代理執筆。

21ヶ条要求・1915＝41歳：大隈内閣による解散総選挙に対応して，「逐鹿閑話」を連載し，人物評論「人物の印象」も連載。{太陽}には毎月，「党首月旦」「政党史論」などを執筆，{中央公論}へも「加藤外相論」を執筆。

民本主義・・・1916＝42歳：「{太陽}に「政界の表裏」連載開始，{時事新報}で「政変物語」を連載して，
ロシア革命・1917＝43歳：出版，徳富蘇峰・三宅雪嶺の推薦文を得る。
本格政党内閣1918＝44歳：連載中の「政界の表裏」が吉野作造の出版社{万葉書房}から出版される。

新聞記者嫌いの伊東巳代治からも絶大な信頼を得て，政友会情報以外の情報源となり，
ベルサイユ条約・1919＝45歳：夕刊に「社会の徴」を連載し，社会評論家としても認知される。
原敬首相暗殺1921＝47歳：*原敬・加藤高明・犬養毅の人物評論「三頭首領」を出版直後，原敬が暗殺され，号泣。これを期に{時事新報}を退社し，月刊誌{文化通信}を発刊。

関東大震災・1923＝49歳：関東大震災に遭遇すると，その凄まじさを{太陽}に投稿。
護憲三派圧勝1924＝50歳：政友会分裂に際し，機関紙{中央新聞}主筆に迎えられる。政治家人物評論集「政治は人格なり」を出版。
治安維持法・1925＝51歳：「政党哲学」を出版し，原敬の墓前に捧ぐ。震災契機に，田園都市開発の進む荏原郡馬込村に自宅を入手。
円本時代始・1926＝52歳：昭和に入り，原敬の偉業をまとめる「原敬全集」刊行会の編集委員となり，
共産党事件・1928＝54歳：完成。また「立憲政友会報国史」編纂人になり，
世界恐慌・・・1929＝55歳：上下巻を完成。
満州事変・・・1931＝57歳：犬養内閣の森格からの要請で内閣囑託となる。「{時事新報}武藤山治からの要請で，社友として戻るが，
五一五事件・1932＝58歳：

帝人疑獄事件1934＝60歳：*武藤山治が暗殺され，{時事新報}の再建も困難になって，退社。政党政治の本場英国に1年ほど研究に出かけるつもりを断念し，政党政治を分かりやすく紹介する「政党政治の科学的検討」を出版。

日中戦争始・1937＝63歳：

第二次大戦始1939＝65歳：3年近く精神を傾倒した「床次竹二郎伝」を完了。
大政翼賛会・1940＝66歳：念願の「原敬伝」に着手。第二次近衛内閣成立を機に，政界とも縁を切り，精魂をこめて取組む。
日米開戦・・・1941＝67歳：
・・・1942＝68歳：最後の一章を残して原稿を渡すが，疲労困憊，半病人の体となる。「原敬伝」は好評を得，増刷となる。戦後，原敬日記が公開されるまでは，原敬研究の重要な文献であった。
牧野良三編「中橋徳五郎伝」の，

年金+総武装1944＝70歳：下巻を書き直して完成させる。戦局は進んで出版もままならず，故郷長崎の森山村に疎開，家族も離散。
敗戦・・・1945＝71歳：長崎でも連日空襲警報に悩まされ，遂に原子爆弾が投下される。
新憲法公布・1946＝72歳：ようやく帰京。早速，「やり残していた「星亨伝」に取り掛かり，
新憲法施行・1947＝73歳：完成，「原敬伝」「床次竹次郎伝」と合わせ，政党誕生期，発展期，衰退期の歴史と人物の三部作となる。病臥中の妻の面倒をこれから見られると思う矢先，妻が急変し死去。
朝鮮戦争始・1950＝76歳：「原敬日記」が公開されて新事実などを知ると，何時でも改訂版が出せるように「原敬伝」を訂正。
独立回復・・・1951＝77歳：戦後，後輩の尽力で書いてきた雑誌{選挙}に「原敬日記で解かれた歴史の謎」「東西古今，選挙物語」連載。

TV放送始・・・1953＝79歳：東京音羽の鳩山一郎邸で自由党幹部が集まったおりに，日本には一貫した政党史が無いからと，「自由民権時代」を書くように勧められる。

自衛隊発足・1954＝80歳：「歴代総理大臣」を，伊東博文から始め，
55年体制始・1955＝81歳：
インストラマン・1958＝84歳：「{時事通信}から，{日本宰相列伝}第7巻として「原敬」の執筆依頼があり，ようやく念願の改定。
安保闘争・・・1960＝86歳：「歴代総理大臣」の第24代加藤高明を書き終え，
タイタイ病始・1961＝87歳：*{時事通信}から「歴代内閣物語上下巻」と題して出版される。視力も衰えるなか，断続に書いてきた「自由民権時代」が{時事通信}の勧めで公開されたの喜びながら，没した。

インターネット前田蓮山物語，